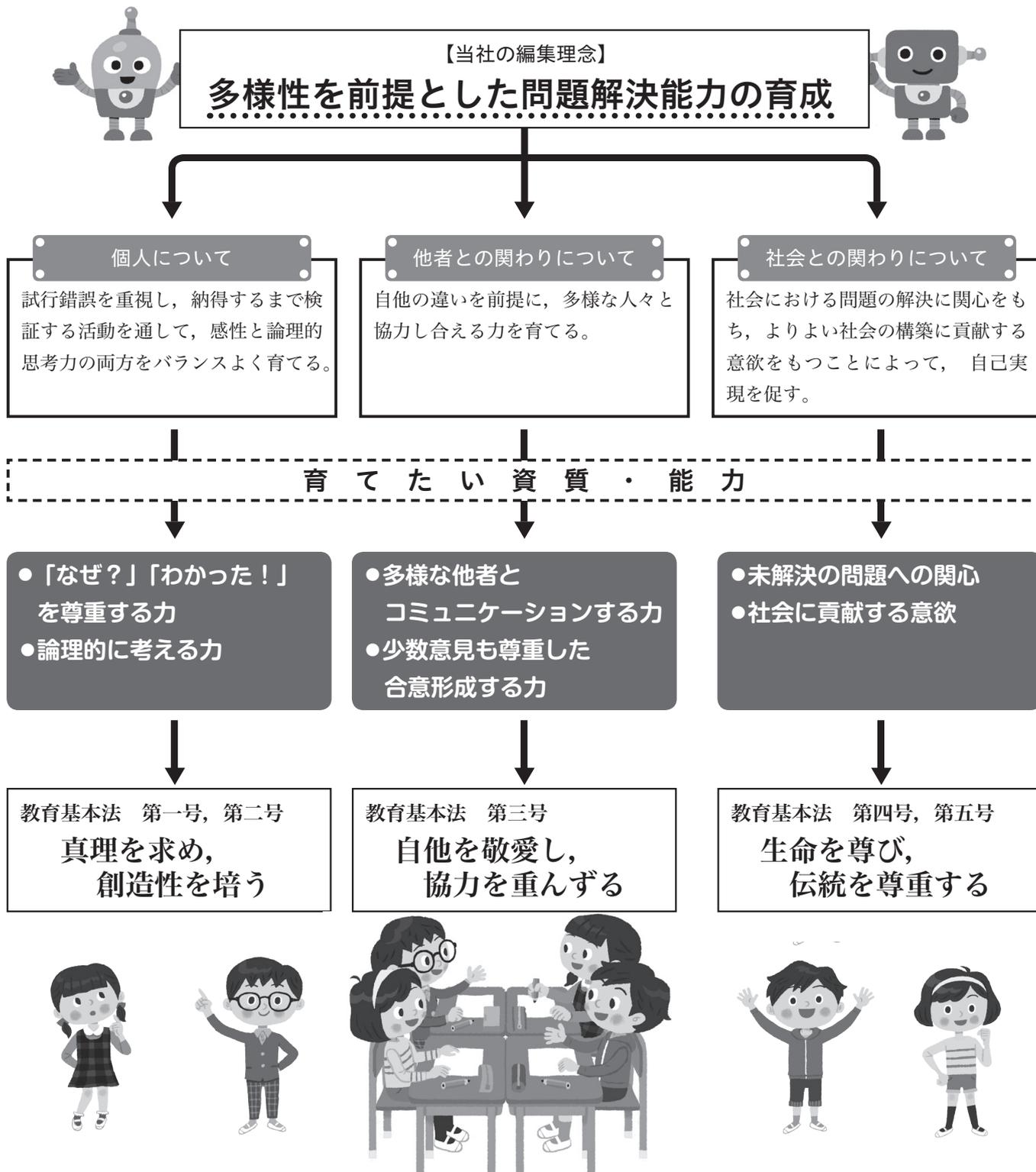


① 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-156	小学校	算数	算数	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	算数 504・505	みんなと学ぶ 小学校 算数 5年上・下		

編修の基本方針



教育基本法を大前提として、上記資質・能力が育成されるよう、次のように様々な工夫をこらして教科書を編集しました。

真理を求める態度を養う

1 わからない。だから学ぶ。

生活の中、算数の中から、問題を発見し、解決するために必要な幅広い知識と教養を身に付けるとともに、問題解決能力を養うことができるようにしました。また、解決できたと考えても一度立ち止まり、批判的に見直すことで、真理を求める態度を養うことができるようにしました。

— 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

▶▶▶ 上巻 P.50

▶▶▶ 下巻 P.113



○問題を見つける

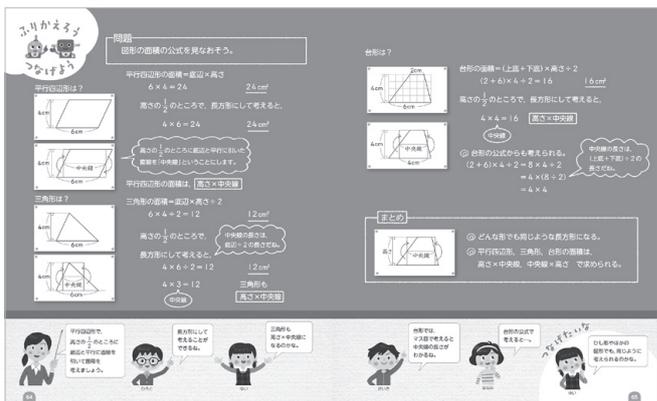
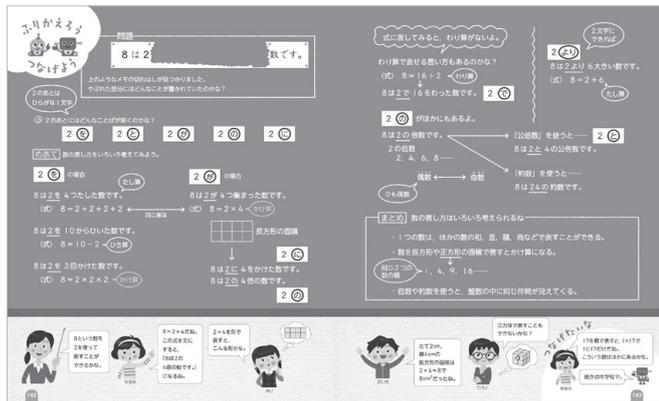
日常や算数の授業の中で疑問が生まれる場面を、「?」を発見として、学習の動機づけにしました。

○ふりかえり、新しい問題を見つける

これまで学習してきたことをふりかえり、学習が身に付いているかどうかを確認すると同時に、次に繋がる問題を発見していくことができるようにしました。

▶▶▶ 上巻 P.142 ~ 143

▶▶▶ 下巻 P.64 ~ 65



創造性を培う

2 そこにある算数。

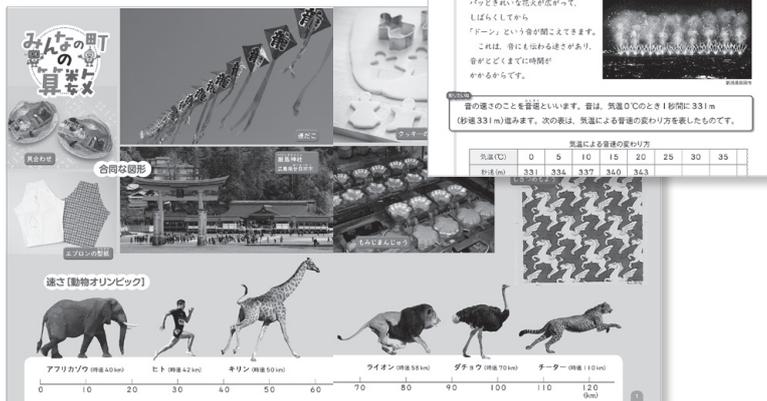
二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

身のまわりの生活の中に、算数が潜んでいることに気づくとともに、それらを算数を通じた視点で観察することで、自らの数学的な創造性を培うことができるようにしました。

▶▶▶ 上巻 P.107

○身のまわりにある算数に気づく

町の中にある合同な図形を見つけたり、動物や音などの速さについて着目したりして、そこから算数を想起することで、自分なりの算数の世界を創造できるようにしました。



▶▶▶ 上巻 表 2 ~ P.1

自他の敬愛と協力を重んずる

3 伝える力、聞く力。

三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

友だちと協力することで、個人では見つけられなかった学びに気づき、自分の意見を伝えるとともに、他者の意見を取り入れ、よりよい解決に向かう力を育みます。

○話し合い、伝え合う

自分の考えを伝えたり、友だちの考えと比べたりする活動を、随所に取り入れました。

▶▶▶ 上巻 P.92

① □にあてはまる数を求めましょう。
② 数やことばを変えて、かけ算の問題を作りましょう。
③ 数やことばを変えて、わり算の問題を作りましょう。

全部の大きさを求める問題にすれば、かけ算になる。
単位量あたりの大きさを求める問題にすれば、わり算になるよ。
いくつ分を求めるときもわり算になる。
分数と整数のまじった問題も作ってみたいね。

▶▶▶ 下巻 P.134

2014年が30%、2015年が40%です。半の貸出さつ数が同じだから、割合が大きい2015年の方が、インターネットを利用して半を貸し出したさつ数が多いです。

④ 2016年と2017年を比べると、インターネットを利用して貸し出したさつ数は増えていきます。次の①～④から1つ選びましょう。また、選んだ理由を、2人の考えのどちらか一方をもとにして、ことばと数や式を使って書きましょう。

① 2016年より2017年の方が増えている。
② 2016年より2017年の方が減っている。
③ 2016年と2017年は変わらない。

さつ数を求めれば、どちかが増えているかわかるね。
さつ数を求めなくても比べられるよ。

○自分で、班で、クラスで

三角形の面積公式について、式が何を意味しているのか読み取る活動を通して、友だちと協力しながら、自分たちなりの意見を導けるように「アクティブ!!」ページとして扱いました。

▶▶▶ 下巻 P.66 ~ P.67

アクティブ!!

公式の「 $\div 2$ 」は何を「 $\div 2$ 」しているのかな。

① 三角形の面積を求める公式は、「底 \times 高さ $\div 2$ 」です。三角形の面積の求め方は、次のような考え方から導きました。

② はんになって、何を「 $\div 2$ 」しているか、自分の考えをはんの人に説明しましょう。また、はんのはかの人の考えを聞いて、自分の考えと同じところがうところを話し合っ、まとめましょう。

③ はんまでまとめたことを発表しましょう。はんのはかの意見を聞いて、考えたことをまとめてみましょう。また、3人の考え方をふりがりながら、何が「 $\div 2$ 」されているか、自分のことばでまとめてみましょう。

○学んだことを再確認し、伝える

これまで算数で学んできたことを使って、修学旅行で人気の場所について調べたいことを話し合い、実際に調べて考察するページとしました。

▶▶▶ 下巻 P.146 ~ 148

今の自分を知らそう!

修学旅行にそなえてツアーガイドブックを作ろう

4年生は修学旅行だね。小学校でよく行くところはどこかな。行き先は、東京都、千葉県、埼玉県が人気らしいよ。それぞれの場所のあつまる場所を調べて、グラフに表しましょう。

東京都コース
東京都は人口が日本でも多いから、どこにも人があつまっているのね。ここにある人口を調べて、グラフに表しましょう。

それぞれの場所の人口密度を調べて、グラフに表しましょう。

区	人口	面積 (km ²)
中央区	217,220	5.8
港区	612,118	12
目黒区	577,910	186
品川区	552,215	10
目黒区	331,022	17
目黒区	209,610	105
目黒区	75,800	91
目黒区	174	6

東京都のことで、ほかに関心があることを話し合おう。また、資料を集めて、グラフに表し、まとめてみましょう。

京都府コース
京都府に修学旅行に行く小学生はどのくらいいるのね。2007年と2017年ではどのくらい変わったかな。

次のグラフや表を見て、わかることをまとめよう。

京都府に修学旅行で来た小学生の性別の割合

性別	2007年	2017年
男子	2.8	3.6
女子	1.3	1.3

京都府に修学旅行で来た小学生の出身地の割合

出身地	2007年	2017年
京都府	2.8	3.6
大阪府	1.3	1.3
兵庫県	0.9	0.9
奈良県	0.5	0.5
和歌山県	0.5	0.5
徳島県	0.5	0.5
香川県	0.5	0.5
愛媛県	0.5	0.5
高知県	0.5	0.5
福岡県	0.5	0.5
佐賀県	0.5	0.5
熊本県	0.5	0.5
鹿児島県	0.5	0.5
沖縄県	0.5	0.5

京都府のことで、ほかに関心があることを話し合おう。また、資料を集めて、グラフに表し、まとめてみましょう。

広島県コース
広島県に修学旅行で行く小学生はどのくらいいるのね。2007年と2017年ではどのくらい変わったかな。

上の表を折れ線グラフで表してみよう。折れ線グラフを見て、平成31年の外国人入国者数を予想してみよう。

性別	2007年	2017年
男子	2.8	3.6
女子	1.3	1.3

広島県に修学旅行で来た小学生の出身地の割合

出身地	2007年	2017年
広島県	2.8	3.6
岡山県	1.3	1.3
兵庫県	0.9	0.9
奈良県	0.5	0.5
和歌山県	0.5	0.5
徳島県	0.5	0.5
香川県	0.5	0.5
愛媛県	0.5	0.5
高知県	0.5	0.5
福岡県	0.5	0.5
佐賀県	0.5	0.5
熊本県	0.5	0.5
鹿児島県	0.5	0.5
沖縄県	0.5	0.5

上の表を折れ線グラフで表してみよう。折れ線グラフを見て、平成31年の外国人入国者数を予想してみよう。

修学旅行にそなえてツアーガイドブックを作ろう

- 学びに向かう力
 - ① 取り組んで来たこと
 - ② 学習したこと
 - ③ よりよいものができるようになったこと
- 考える力、調べ力、要約力
 - ① ツアーガイドブックを作るために、算数の知識の使い方を覚えてきたこと
 - ② 算数の知識の使い方を数値が正しいかどうか確かめたこと
 - ③ ツアーガイドブックとして算数の知識を文章や図表、表にまとめたこと
- 知っていることややってみようと思ったこと
 - ① よりよいツアーガイドブックを作ること
 - ② ツアーガイドブックを作ること
- 自分へのほげめし
 - ① よりよい自分へのほげめし
 - ② よりよい自分へのほげめし

「よくできたこと」をさらにがんばって、「よくできたこと」をさらにがんばって、チームで発表して、資料を集めて、まとめてみましょう。

生命を尊び、自然を大切にすることを養う

4 自然，算数。

四 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

算数を通して自然環境を見ることによって、自然を大切に、環境問題に数理的に関わっていくとする態度を育成します。

▶▶▶ 上巻 P.61

○自然や環境を算数で考察する

地球温暖化に関連する1つの要因でもある二酸化炭素排出量について、日本だけでなく、世界の国々のことも調べることで、環境問題に積極的に関わっていくことができるように配慮しました。

年	二酸化炭素を 出した量(トン)	人(万人)	1人あたりの 二酸化炭素を出した量(トン)
1990	116200000	12361	
1995	124800000	12557	
2000	128000000	12693	
2005	131100000	12777	
2010	121700000	12806	
2015	122700000	12709	

① 1人あたりではどのくらい増えていきますか？折れ線グラフや棒グラフで表して考えてみましょう。

伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する

5 日本の算数。

五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

数学の歴史、日本と他国の貿易を学習の素材として取り入れ、歴史や社会に対して興味・関心を喚起することによって、それらをこれからも大切にしていこうとする態度を養うことができます。

○円周率の歴史を学ぶ

円周率について、海外の偉人だけでなく、日本の偉人を扱うことで、数学史、和算について目を向けることができるように配慮しました。

▶▶▶ 下巻 P.78

① 大抵は、円周率を3としていたようです。

② 4000年ほど前、エジプトなどでは $\frac{25}{8}$ や $\frac{22}{7}$ という数が、円周率として使われていました。

③ 2000年ほど前に、ギリシャのアルキメデスは、円周率が $\frac{22}{7}$ より大きく、 $\frac{22}{7}$ より小さいことを発見しました。

④ 1500年ほど前の中国では、最良の値が $\frac{355}{113}$ や $\frac{355}{113}$ という数を使っています。

⑤ 300年ほど前の日本では、数学家が円周率は、 3.14159265359 より少し小さいことを、計算で導いています。

○輸入について算数で学ぶ

ミネラルウォーターの輸入について考察する課題を通して、他国に思いを馳せることができるように配慮しました。

▶▶▶ 下巻 P.135

年	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
消費量(千ℓ)	109.0	183.4	251.8	317.2	316.1	325.5	326.1	338.7	352.3
輸入量(千ℓ)	19.9	22.2	16.6	18.6	11.2	12.0	10.5	10.3	9.8
輸入率(%)	19.5	12.1	6.6	5.9	3.5	3.7	3.2	3.0	2.8

2 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全章	<ul style="list-style-type: none"> 教材の選択にあたっては、児童の生活に根ざし、豊かな情操と道徳心が養われるように配慮しました。(第一号) 男女平等の精神にのっとり、教科書に掲載する男女児童の名前はすべて「さん」付けとしました。(第三号) 4人の成長するキャラクターを設定し、協力して課題を解決していく様子を示すことにより、自他を敬愛し協力を重んずる態度の育成に配慮しました。(第三号) 	全般
口絵	<ul style="list-style-type: none"> 日本各地にある合同な図形に着目し、幅広い知識と教養が身につくように配慮しました。(第一号) 	上表2～1ページ
①小数と整数	<ul style="list-style-type: none"> 標高とレールの幅を比較することで、生活と整数や小数との関連を重視する態度を養うことができるように配慮しました。(第二号) 	上10ページ
②合同な図形	<ul style="list-style-type: none"> 合同な四角形を作図する課題を通して、真理を求める態度を養うと同時に他者との協力を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第一、三号) 	上27～28ページ

③比例	・花だんを作る課題を通して、比例関係が存在することに気づき、生活との関連を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第二号)	上 32～33 ページ
④平均	・鶏の卵の重さの平均で比較する課題を通して、生命を尊ぶ態度を養うことができるように配慮しました。(第四号)	上 46 ページ
⑤単分量あたりの大きさ (1)	・自分たちの県の人口と面積を調べて、人口密度を求めることによって、郷土を知り、郷土愛を育むことができるように配慮しました。(第五号) ・1人あたりの二酸化炭素排出量と温暖化の関係について考察し、環境の保全について配慮する姿勢を育むことができるように配慮しました。(第四号)	上 54 ページ 上 61 ページ
⑥小数のかけ算	・いろいろな計算のしかたを考察することで、自他の協力を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第三号)	上 66～67 ページ
⑦小数のわり算	・値を変更することで、どのような式の問題になるかを考える課題を通して、幅広い教養と真理を求める態度を養うことができるように配慮しました。(第一号)	上 92 ページ
⑧単分量あたりの大きさ (2)	・新幹線やリアモーターカー、台風の風速、音速などを題材として扱うことで、割合が身のまわりの様々な場面で扱われていることを知り、生活との関連を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第二号)	上 100～102, 107 ページ
⑨図形の角	・多角形の角の大きさを求める活動を通して、真理を求める態度を養うことができるように配慮しました。(第一号)	上 119 ページ
⑩倍数と約数	・倍数の導入として、パチンナンバーゲームを扱うことにより、自他の協力を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第三号)	上 127 ～130 ページ
⑪分数のたし算とひき算	・分数の計算を考える際、身のまわりのものを扱った課題で導入することで、分数と生活との関連を意識することができるように配慮しました。(第二号)	下 11～16 ページ
⑫分数と小数・整数	・数の大小を考える課題において、多様な考えを示すことで、自他の協力を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第三号)	下 27 ページ
⑬割合 (1)	・子どもに人気のある、素晴らしい記録を残した偉人を紹介し、自立の精神を養うとともに、勤労を重んじる態度を養うことができるように配慮しました。(第二号)	下 38 ページ
⑭図形の面積	・面積の求め方の多様な考え方を示すことにより、個人の能力を伸ばし、創造性を培うことができるように配慮しました。(第二号)	下 50, 56, 58 ページ
⑮正多角形と円	・他国や我が国の数学者を紹介することで、世界の国々の歴史や我が国の歴史に興味をもつことができるように配慮しました。(第五号)	下 78 ページ
⑯体積	・石のような形の体積の求め方を知ることによって、幅広い知識と教養を身につけることができるように配慮しました。(第一号)	下 101 ページ
⑰割合 (2)	・割合と値引きの関連を考察することによって、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うことができるように配慮しました。(第三号)	下 110 ページ
⑱いろいろなグラフ	・子どもたちの将来になりたい職業を扱うことによって、様々な職業があることを知り、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第二号)	下 115 ページ
⑲立体	・角柱の性質について統一的に考察することで、真理を求める態度を養うことができるように配慮しました。(第一号)	下 125 ページ
⑳データの活用	・ミネラルウォーターの消費量や輸入率、輸入量を題材として扱うことで、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第五号)	下 135 ～136 ページ

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 学校教育法第二十一条二、四の目標を達成するために、単元末の「深めよう」では、児童の視野を、学年を追うごとに学校、地域社会、日本、世界へと広げていけるように配慮し、日本の文化、外国の文化を理解しようとする態度を養うことができるようにしました。また、その題材は、生活に深く関る文化や環境といった内容を取り上げ、それらの基礎的な理解を養うことができるようにしました。
2. 学校教育法第二十一条九の目標を達成するために、資料の読み取りの場面で読書活動に触れ、生活を豊かにする配慮をしました。

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-156	小学校	算数	算数	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	算数 504・505	みんなと学ぶ 小学校 算数 5年上・下		

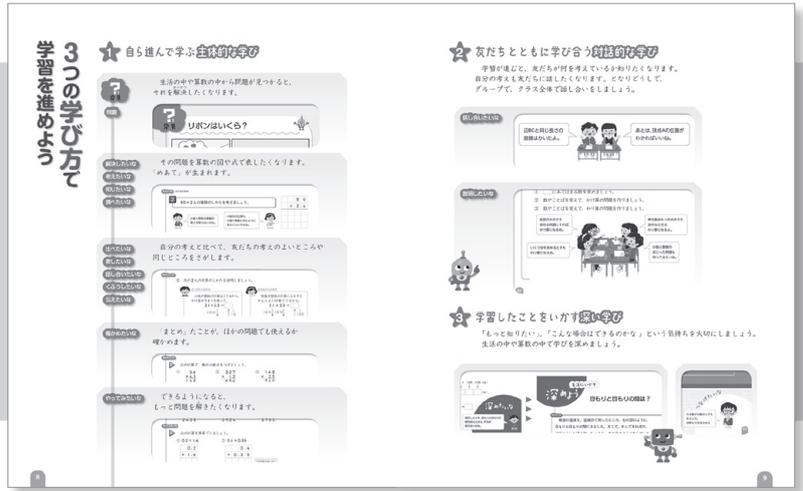
1 編修上特に意を用いた点や特色

1 主体的に学びたくなる

→ ~したいな

子どもの学び方を「~したいな」と表現して, 子どもの思考力・判断力・表現力を促しながら学習が進められるようにしました。

上巻 P.8 ~ 9



2 算数の見方・考え方が身に付く

→ 算数で見つけない考え方

「見方・考え方」を明確にして, それぞれをモンスターとして登場させました。子どもたちは, それぞれのモンスターをゲットするように「見方・考え方」が自然に身に付いていきます。

見方・考え方 

それぞれの位を1つ分として, いくつ分あるか考えればいいね。

見方・考え方 

2倍するという事は, ある数に2をかけることと同じだね。

見方・考え方 

変わり方にどんなきまりがあるか, 考えてみよう。

見方・考え方 

人口密度は, 面積をそろえて考えているね。



上巻 P.7

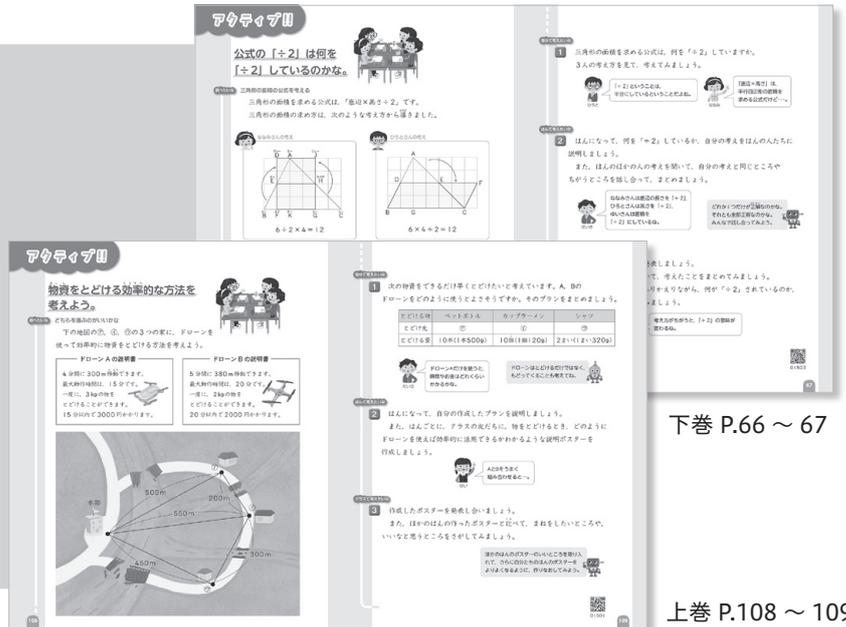
3

主体的, 対話的で深い学びの実現

主体的な学びの実現に向けては, 1ですすでに取り上げたように, 様々な問題に対して, 「～したいな」という表現を用いて学習が進められるようにしてあります。ここでは, 対話的で深い学びについて取り上げます。

→ アクティブ!!

アクティブ(活動)のページを設定することで, 自分で考え, 班で考え, クラス全体で考える等の話し合いの段階を意識した活動を通して, 主体的(自分で), 対話的(班で), 深い学び(クラス全体で)が実現できるように配慮しました。

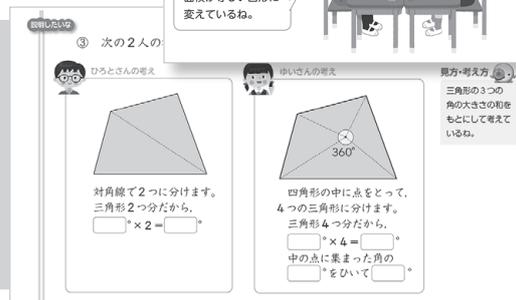


様々な場合を考えて最適解を導いたり, 改めて式の意味を読み取ったりする課題を取り上げました。



→ 話し合いたいな / 説明したいな

「話し合いたいな」, 「説明したいな」という子どもの思いによって, 様々な話し合い活動が行えるように配慮しました。

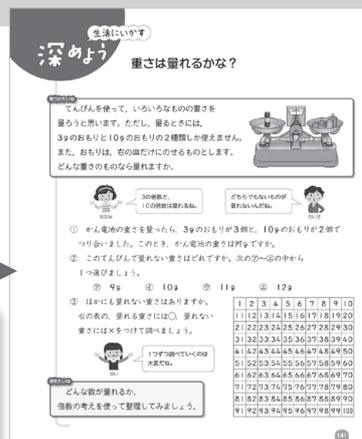


→ 深めたいな / つなげたいな

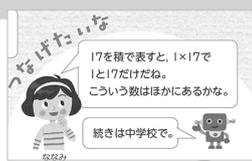
「深めたいな」で学習を統合的・発展的に高められるようにし, 「つなげたいな」で子どもの疑問によりそった学習が進められるように配慮しました。



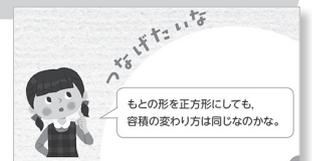
上巻 P.140



上巻 P.141



上巻 P.143



下巻 P.103

重さの量り方を, 倍数, 約数の考えと結びつけ, 生活の中で算数を役立てることが意識できるようにしました。

素数に関する疑問や, 条件を変えて考えを拡張していくよう促す発問を示すことで, 次の学習への意欲が生まれるようにしました。

→ 今の自分を知らう！

パフォーマンス評価の考えを取り入れ、学年末に「今の自分を知らう」ページと自己評価表を掲載しました。学年ごとに評価できるようにして、学年が進むにつれて自分の成長が実感できるように配慮しました。

今の自分を知らう！
修学旅行にそなえてツアーガイドブックを作ろう

4年生は修学旅行に行き、5年生は修学旅行に行き、6年生は修学旅行に行き、それぞれの場所のようす調べておこう。

行き先は、東京都、京都府、広島県が多いんだよ。

東京都コース
東京都に修学旅行で行く小学生はどのくらいいるの？
2007年と2017年で比べてみよう。

京都府コース
京都府に修学旅行で行く小学生の割合はどのくらい？
2007年と2017年で比べてみよう。

広島県コース
広島県に修学旅行で行く小学生の割合はどのくらい？
2007年と2017年で比べてみよう。

東京都の人口密度を調べて、グラフに表してみよう。

東京都の人口密度を調べて、グラフに表してみよう。

東京都の人口密度を調べて、グラフに表してみよう。

今の自分を知らう！
修学旅行にそなえてツアーガイドブックを作ろう

1. 学びに向かう力
① 取り組んで楽しかった。
② 学習したことや役に立った。
③ よろしい気持ちで取り組んで楽しかった。

2. 考える力、決める力、実行力
① ツアーガイドブックを作るとき、自分の知識や調べたことを使えた。
② 自分の知識や調べたことを使えてよかった。
③ ツアーガイドブックを作るとき、自分の知識や調べたことを使えてよかった。

3. 知っていることやできるよくなったこと
① よろしい気持ちで取り組んで楽しかった。
② ツアーガイドブックを作るとき、自分の知識や調べたことを使えてよかった。

4. 自分の成長を感じたこと
① 取り組んで楽しかった。
② 学習したことや役に立った。
③ よろしい気持ちで取り組んで楽しかった。

今の自分を知らう！
修学旅行にそなえてツアーガイドブックを作ろう

1. 学びに向かう力
① 取り組んで楽しかった。
② 学習したことや役に立った。
③ よろしい気持ちで取り組んで楽しかった。

2. 考える力、決める力、実行力
① ツアーガイドブックを作るとき、自分の知識や調べたことを使えた。
② 自分の知識や調べたことを使えてよかった。
③ ツアーガイドブックを作るとき、自分の知識や調べたことを使えてよかった。

3. 知っていることやできるよくなったこと
① よろしい気持ちで取り組んで楽しかった。
② ツアーガイドブックを作るとき、自分の知識や調べたことを使えてよかった。

4. 自分の成長を感じたこと
① 取り組んで楽しかった。
② 学習したことや役に立った。
③ よろしい気持ちで取り組んで楽しかった。

下巻 P.146 ~ 147

これまで学んだことを活用して、どのようなツアーガイドブックを作成すればよいか考察しています。

自己評価では、自己肯定感もてる配慮をしています。

下巻 P.148

→ ふりかえろう つなげよう

領域ごとの学習の積み重ねを意識した「ふりかえろう つなげよう」のページを設定して、板書を使って学年を超えた振り返りと中学校との関連を明確にしました。

図形の面積公式を見直すことで、中央線の長さや高さがかかれば、平行四辺形や三角形、台形の面積を求めることに気づくことができました。

ふりかえろう つなげよう

図形の面積の公式を見直そう。

平行四辺形の面積 = 底辺 × 高さ
 $6 \times 4 = 24$ 24 cm^2

高さの $\frac{1}{2}$ のところで、長方形にして考えよう。
 $4 \times 6 = 24$ 24 cm^2

三角形の面積 = 底辺 × 高さ ÷ 2
 $6 \times 4 \div 2 = 12$ 12 cm^2

高さの $\frac{1}{2}$ のところで、長方形にして考えよう。
 $4 \times 6 \div 2 = 12$ 12 cm^2

台形の面積 = (上底 + 下底) × 高さ ÷ 2
 $(2 + 6) \times 4 \div 2 = 16$ 16 cm^2

高さの $\frac{1}{2}$ のところで、長方形にして考えよう。
 $4 \times 4 = 16$ 16 cm^2

どの図形でも同じような長方形になる。
① 平行四辺形、三角形、台形の面積は、高さ × 中央線、中央線 × 高さ、で求められる。

下巻 P.64 ~ 65

→ できるようになったこと / まなびをいかそう

単元末問題を「できるようになったこと」と「まなびをいかそう」の2つとすることで、この単元で身に付けさせたい知識・技能を明確にしなが、その知識・技能をいかして考察する問題に挑戦できるようにしました。

できるようになったこと

① 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

② 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

③ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

④ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

⑤ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

⑥ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

⑦ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

⑧ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

⑨ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

⑩ 1から50までの自然数について、10以内に分けてみよう。

上巻 P.139 ~ 140

5

新時代に対応した能力の育成

WEB上で実際に体験できます。

→ プログラミング的思考

プログラミング的思考を育成するために1年「すじみちをたててかんがえよう プログラミングのプ」～6年「筋道を立てて考えよう プログラミングのグ」まで掲載しました。これらはQRコードによって実際に操作することができるようにしています。

正多形がかけられるかどうか、実際に検証ができるようにしました。

下巻 P.144 ~ 145

→ 「データの活用」の充実

各学年で統計の基礎・基本（表・グラフの作成等）とその活用について、単元を分けて掲載しました。また6年では統計での問題解決方法であるPPDACサイクルについて具体例を示して、体験できるように配慮しました。

下巻 P.114 ~ 115

割合を使ったグラフの基礎・基本

下巻 P.132 ~ 133

様々なグラフの読み取り

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時間
①小数と整数	A(2) ア(ア)	上 11 ~ 15 ページ	5
	A(2) イ(ア)	上 11 ~ 15 ページ	
②合同な図形	B(1) ア(ア)	上 19 ~ 29 ページ	9
	B(1) イ(ア)	上 19 ~ 29 ページ	
	内容の取扱い (2)	上 29 ページ	
③比例	A(6) ア(ア)	上 34 ~ 37 ページ	6
	A(6) イ(ア)	上 34 ~ 37 ページ	
	C(1) ア(ア)	上 34 ~ 35 ページ	
	C(1) イ(ア)	上 36 ~ 37 ページ	
④平均	D(2) ア(ア)	上 41 ~ 46 ページ	6
	D(2) イ(ア)	上 43 ~ 46 ページ	
⑤単位量あたりの大きさ (1)	C(2) ア(ア)	上 51 ~ 58 ページ	10
	C(2) イ(ア)	上 51 ~ 58 ページ	

⑥小数のかけ算	A(3) ア(ア)	上 65 ~ 67, 69 ~ 70 ページ	11
	A(3) ア(イ)	上 68 ~ 74 ページ	
	A(3) ア(ウ)	上 75 ~ 76 ページ	
	A(2) イ(ア)	上 69 ページ	
⑦小数のわり算	A(3) ア(ア)	上 80 ~ 82, 84 ~ 85 ページ	11
	A(3) ア(イ)	上 83 ~ 90 ページ	
	A(3) イ(ア)	上 91 ~ 92 ページ	
	A(2) イ(ア)	上 82 ページ	
○倍の計算 (1)	A(3) イ(ア)	上 96 ~ 97 ページ	1
	[数学的活動](1) イ	上 96 ~ 97 ページ	
⑧単位量あたりの大きさ (2)	C(2) ア(ア)	上 99 ~ 104 ページ	6
	C(2) イ(ア)	上 99 ~ 104 ページ	
1 学期末			1
⑨図形の角	B(1) ア(イ)	上 113 ~ 121 ページ	9
	B(1) イ(ア)	上 113 ~ 121 ページ	
⑩倍数と約数	A(1) ア(ア)	上 125 ~ 126 ページ	11
	A(1) ア(イ)	上 127 ~ 138 ページ	
	A(1) イ(ア)	上 125 ~ 126, 135 ~ 136 ページ	
	内容の取扱い (1)	上 132, 135 ページ	
⑪分数のたし算とひき算	A(4) ア(ウ)	下 5 ~ 8 ページ	10
	A(4) ア(エ)	下 9 ~ 10 ページ	
	A(4) イ(ア)	下 5 ~ 10 ページ	
	A(4) イ(イ)	下 9 ~ 10 ページ	
	A(5) ア(ア)	下 11 ~ 17 ページ	
	A(5) イ(ア)	下 11 ~ 17 ページ	
⑫分数と小数・整数	A(4) ア(ア)	下 24 ~ 27 ページ	8
	A(4) ア(イ)	下 21 ~ 23 ページ	
	A(4) イ(ア)	下 27 ページ	
	A(4) イ(イ)	下 21 ~ 23 ページ	
⑬割合 (1)	C(3) ア(ア)	下 31 ~ 34 ページ	6
	C(3) ア(イ)	下 35 ~ 36 ページ	
	内容の取扱い (4)	下 37 ~ 38 ページ	
	A(4) イ(イ)	下 39 ページ	
⑭図形の面積	B(3) ア(ア)	下 43 ~ 59 ページ	12
	B(3) イ(ア)	下 43 ~ 59 ページ	
	[数学的活動](1) ウ	下 56, 58 ページ	
2 学期末			1
⑮正多角形と円	B(1) ア(イ)	下 69 ~ 72 ページ	11
	B(1) ア(ウ)	下 71 ~ 72 ページ	
	B(1) ア(エ)	下 73 ~ 78 ページ	
	内容の取扱い (3)	下 75 ページ	
⑯体積	B(4) ア(ア)	下 85 ~ 86, 90 ページ	10
	B(4) ア(イ)	下 87 ~ 91 ページ	
	B(4) イ(ア)	下 96 ~ 97 ページ	
⑰割合 (2)	C(3) ア(ア)	下 105 ~ 106 ページ	8
	C(3) イ(ア)	下 107 ~ 110 ページ	
⑱いろいろなグラフ	D(1) ア(ア)	下 114 ~ 119 ページ	7
	[数学的活動](1) ア	下 118 ~ 119 ページ	
⑲立体	B(2) ア(ア)	下 123 ~ 129 ページ	8
	B(2) イ(ア)	下 125 ページ	
⑳ データの活用	D(1) ア(ア)	下 133 ページ	2
	D(1) ア(イ)	下 132 ~ 137 ページ	
	D(1) イ(ア)	下 132 ~ 137 ページ	
	内容の取扱い (5)	下 133 ページ	
	[数学的活動](1) ア	下 132 ~ 137 ページ	
㉑ 5年のまとめ			4
3 学期末			1
学年末			1

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-156	小学校	算数	算数	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	算数 504・505	みんなと学ぶ 小学校 算数 5年上・下		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や取扱いに示す事項	ページ数
上 P.144	素数	2	A(1) ア(イ) 約数や倍数について知ること。	1
下 P.26	同じ数が続く小数	2	A(3) ア(ア) 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。	0.5
下 P.82	タイヤの軌跡	2	B(1) イ(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。	0.5
下 P.136	1次関数	2	D(1) イ(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。	0.5
合計				2.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容